OUKA
The University of Osaka
Institutional Knowledge Archive

| | |
|---|---|
| Title | 特集2　岩下徹ダンスワークショップ+哲学カフェ＝アートコモンズでの試み |
| Author(s) | |
| Citation | 臨床哲学のメチエ. 2004, 13, p. 25-25 |
| Version Type | VoR |
| URL | https://hdl.handle.net/11094/71171 |
| rights | |
| Note | |

*The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA*

https://ir.library.osaka-u.ac.jp/

The University of Osaka

特集2

# 岩下徹ダンスワークショップ＋哲学カフェ＝アートコモンズでの試み

2003年、11/7－9に慶典院で開催されたコモンズフェスタ、「アートコモンズ」。毎年秋に開催されるこのイベントに、舞踊家の岩下徹さんのダンスワークショップ「少しずつ自由になるために」(以下ダンスWSと略)と連動した哲学カフェを開いた。身体表現から言語表現へとつなげてみようというわけだ。身体運動という、あまりに直接的で自明な出来事の後にまだ、なお、さらに、言葉で語る余地は残されているのだろうか？他ならぬその表現に集約させられたものを、言語に置き換える意味を、参加者はどう受け止めるのか？そして、そのような場はいかにして成立するのか？

本報告ではまず、筆者がダンスWSと哲学カフェの様子を簡単に紹介する。次にこの企画を提案して下さった慶典院ディレクターの川井田さんへのインタビューが続く。慶典院は文字通りにはお寺だが、その活動は（加えてその建物も）いわゆる一般的なそれと全く違う。かつてお寺が担っていた地域における役割に真摯に向き合い、取り組もうとするのだ。そして恐らく、そのツールの一つとして、アートを見据えている。このインタビューでは、私たちの哲学カフェにかぎらず、様々な活動を可能とする、そしてアートを介したコミュニケーションの場を地域の中で提供しプロデュースしていく立場からのお話しを、コモンズを例にお聞きすることができた。思えば初めて哲学カフェを行ったのは2000年のコモンズである。幾度も関わりがありながら、誌上できちんと取り上げたことがなかったことが不思議なぐらいだ。慶典院スタッフとして語りながらも、時には「個人的考えですが」と前置きしながら、シャープに、かつ冷静に、自分の視点を交えながら、お話し頂いた。最後は、ダンスWSと哲学カフェの様子を見学された古後さんによるレビューである。これまで哲学カフェを何度も行ってきたが、第三者的視点から見つめ直す機会があまりなかった。その意味で、我々にとってもはっとさせられるような気付きを得ることとなった。「ダンスと哲学する」という軽妙なタイトルに、参加者のからだと言葉の関係を示すエッセンスが見てとれるようで、個人的にとても気に入っている。